

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

人類に奉仕するロータリー  
Rotary Serving Humanity



活動するロータリー  
Rotary Acting

国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム 2016～2017 富津中央RC会長 榎本 守男  
国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2473 第27回例会 2017. 2. 16 晴

点 鐘 : 榎本 守男 会長  
進 行 : 山下 厚 SAA  
ソング : 手に手つないで  
お客様 : 山下 清俊 様 (市川東 RC)

## 会長挨拶

榎本 守男 会長



皆さん、こんにちは。まずお客様の紹介です。地区職業奉仕委員会副委員長の山下清俊様です。本日は卓話で来ていただきました。お忙しい中ありがとうございます。よろしく願います。

13日の夕刻、私は沖縄から羽田に帰ってきました。アクアラインのバスが定刻を過ぎてもなかなかきません。待つこと 15 分、こんなアナウンスがありました。「VIPの誘導の為バスが遅れています」VIPとは安倍総理の事でした。トランプ大統領との会談と27ホールのゴルフそして5回の会食を終えてフロリダより18時過ぎに政府専用機で羽田に到着されまし

た。ゴルフに興じてとある政党代表はコメントされていましたが、首脳がこれほどの長時間を一緒に過ごすことは、決して無駄ではないと思います。気を遣いながら、不安で不透明な会談だったと思いますが、それを乗り越え親密度はかなり深まったはずだと私は評価したいと思います。うわべだけの付き合いではなく世間の評価を気にせずストレートな友情を築いてほしいと思います。トランプを超えろと総理にエールを送りたいと思います。

次に先月より例会時間の都合で持ち越していたお話をさせていただきます。

豊洲市場への移転、千代田区区長選挙、7月の都議選、石原元都知事とのバトル等でマスコミを賑やかしている小池東京都知事の多用されるカタカナ言葉についての話です。

カタカナ語は使う方には便利ですが、受ける側にとっては初耳で解からない言葉も多く聞き返すのは勇気のいる難解な言葉でもあります。都知事はWBSの元司会者でした。関西学院大学中退しカイロ大学で学ばれ参議院1期、衆議院8期、環境大臣、防衛大臣を歴任されております。政治家は言葉に詰まるとはいけないと言われていました。話の中身よりも、言葉がスラスラ出てくる状態に有権者は感嘆すると言われているからです。何も言うことがないけれど、とりあえず何か言っている感じを演出しなければならぬことはままあります。そんなときこ

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3  
いち川旅館 Ichikawa ryokan  
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,  
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178  
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>  
Mail [home@futtsuchuo-rotary.org](mailto:home@futtsuchuo-rotary.org)



そ、カタカナ言葉の出番だと思います。皆さんもこの際覚えて使ってみてください。今日は、ロータリアンにとっても便利なカタカナ言葉を8つ紹介します。

**ワイズスペンディング** 「賢い支出」という意味の経済学者のケインズの言葉です。不況対策として財政支出を行う際は、将来的に利益・利便性を生み出すことが見込まれる事業・分野に対して選択的に行うことが望ましいという意味で用いられています。

**サステイナブル** 持続可能であるさま。特に、地球環境を保全しつつ持続が可能な産業や開発などについていいます。使用例は「サステイナブルな社会作り」

**ダイバーシティ** 「多様性」と訳されています。異なるものがいろいろあって互いに影響を及ぼしあいながらも、全体としても調和がとれている状態がダイバーシティです。多様な人材を積極的に活用しようという考え方のことです。生活スタイル、宗教、価値観なども多様である事を指しています。いまや教育の過程でも、多様な価値観の中で考え、学ぶというダイバーシティは重要なキーワードとなっております。

**イノベーション** 物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」のことです。生産を拡大するために労働、土地などの生産要素の組合せを変化させたり、新たな生産要素を導入したりする企業家の行為をいい、革新または新機軸と訳されています。

**メルクマール**「指標・目印」一般的には、最終目的を達成するための一連の過程等における中間指標や目印のことを意味することが多く、進捗を確認するための中間達成基準や中間地点のゴールの意味で用いられます。

**スプリングボード** ある行動を起こすきっかけとなるもの。契機。使用例「留学をスプリングボードとして新しい人生に踏み出す」

**ブランディング** ある商品やサービスのコンセプトを特定のユーザーに価値があると認識させ、市場でのポジショニングを築くマーケティング戦略のことを言います。

**レガシー** 「遺産」という意味になります。遺産とは故人が遺した財産など所有物や、業績や仕組みなど、

成果的なものも言います

以上カタカナ言葉の紹介をさせていただきました。この8つの言葉で伝達手法として、語彙力を強化し、ダイバーシティを活用し、ワイズスペンディングによって、サステイナブルな社会を構築するために、今日の会長挨拶をスプリングボードとして、メルクマールまで自分をイノベーションし、言葉の発信力の機能を拡大していただければ幸いです。しいて言えばそれが自分自身のブランディングになり、最終的にはレガシーになるのではないのでしょうか。無理矢理使ってみました。この意味不明を以って会長挨拶とします。

## 幹事報告

渡辺 哲夫 幹事



1. 木更津RCより例会変更のお知らせ。
  - ・2月23日(木)→2月25日(土)のIM移動例会に変更。
2. 君津RCより例会変更のお知らせ。
  - ・3月11日(土)点鐘14時。
  - 3月13日(月)の例会を振替え、ホテル千成にて創立45周年記念式典を開催する。
3. 袖ヶ浦RCより例会変更のお知らせ。
  - ・3月6日(月)の例会は、3月5日(日)～6日(月)の鬼怒川、水戸方面への親睦 旅行に変更。
  - ・3月13日(月)市原RCとの合同夜間例会のため、点鐘を18時に変更する。
4. 塩山RC・君津RCより週報が届いております

(回覧)

## 卓話者紹介

須藤 隆 職業奉仕担当部長

今年度の職業奉仕にかかわるクラブの役割として、職業奉仕の本来の在り方を啓発し、模範的な職業奉仕の実践例を示すこととしました。このクラブの活動計画を實踐すべく昨年10月に、地区職業奉仕委員会に卓話をお願いいたしました。1月の職業奉仕月間には間に合いませんでしたが、本日、日程の都合をつけた頂き、職業奉仕委員会副委員長の山下清俊様にお腰頂きました。山下様は地区委員会の職業奉仕担当のお立場から具体的な事例を交えてお話くださるとのことですので、ご清聴をよろしくお願ひします。

## 卓話

地区職業奉仕委員会副委員長  
山下 清俊 様



富津中央ロータリークラブの皆様こんにちは。私は地区職業奉仕委員の山下です。所属は市川東ロータリークラブです。職業分類は写真工業です。本日は当クラブの卓話にお招きいただきまして、ありがとうございます。

さて早速ですが、地区としての活動は「それぞれ個々のロータリークラブがロータリーの目的を推進することを手助けすること」にあります。地区職業奉仕委員会といたしましては、「職業奉仕」を難しく考えずにわかりやすく伝えていくこと、また奉仕を通じて「信用・信頼を得ることの大切さ」を皆様と共有化していくことを目指し、卓話を中心に活動をしてきております。

従いまして、私の役目も職業奉仕委員を仰せつかりましたので、皆様の「職業奉仕」の理解を深める

ことを手助けすることにあります。しかしながら、私はクラブに入会して間もなく10年になりますが、勉強不足でまだまだ分からないことばかりです。私のような人間が皆様にそのようなお手伝いができるとはとても思えません。私といたしましては、せめて私なりに、標準クラブ定款やその他ロータリー関係の文書を読んでの私なりの理解や、クラブや地区の仲間と話し合ったりしたこと、仕事上での経験から感じたことなどをお話させていただき、それが少しでも皆様の「職業奉仕」についての「考え・思い」の参考にしていただければと言う気持ちでおります。

さて、「職業奉仕」については、世界のロータリーの中でも、国内でも、更には地区内でもいろいろな議論があるようです。つまり、統一見解となっていないわけです。だから、人によって言うことが違うのです。難しいわけです。そういつてしまうと身もふたもないことになってしまいます。そこで、まずは標準クラブ定款を確認してみましょう。

ここで改訂された標準クラブ定款では、職業奉仕 (Vocational Service) とは、次のように記載されております。

「ロータリーの第二奉仕部門。その目的には、事業及び専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくことが含まれる。クラブの役割としては、クラブ会員の手腕を生かして、社会のニーズに応えられるようなプロジェクトを開発することが含まれる。また、ロータリーの原則に沿って自分の職業を律し、併せてクラブが開発したプログラムに応えることである。」

これまでの定款から、文面の変更に加え、アンダーライン部分が追加されました。特にアンダーライン部分ですが、これは、クラブとして職業奉仕のプログラムやプロジェクトを計画実行することを示しております。

これまで、職業奉仕部門以外の他の4つの奉仕部門はクラブとして取り組む奉仕対象が明確(例えば「社会奉仕」であれば社会への奉仕)であったのに対し、「職業奉仕」は「職業」に対し「奉仕」するのではなく、そういう面では分かりづらい面がありま

した。そういう点で、クラブとしてそれぞれの会員の職業をクラブの活動に直接的に使おうよということかなと思います。各クラブではこれから活動を決めていくことになるのでしょ。

定款変更の件は、このぐらいいたしまして、あらためてここでは、今一度、「私たち会員一人一人にとってロータリーの「職業奉仕」とはどういうことか？」を考えてみたいと思います。

一言でいうとするとどうなるでしょうか？

「職業奉仕」とは「世のため、人のために仕事をする」ということだと言っているのではないのでしょうか？

歴史的には、職業奉仕の考え方はアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱し、ロータリーがそのまま取り入れたモットー、「もっとも良く奉仕する者、もっとも多く報いられる」で表現されています。

\*アーサー・フレデリック・シェルドン:1868 生、ミシガン州。ロータリーにスローガンをもたらした人。ミシガン大学卒業後、教科書販売で生計を立てていた。自転車に乗って、書物を売っていた。その後、出版会社を営み成功。(賄賂が横行していた時代、売り手がいかにして買い手をだますかの時代)。1902年、シカゴにシェルドン販売学専門学校を設立。ポール・ハリスとの出会いは記録がない。1907 年より前であることは確か。

では、このシェルドンのいう職業奉仕とはどんな考え方でしょう。

我々職業人が、自らの事業の継続的な発展を願うことは当然です。企業運営によって利益を得ることも当然であり、決して卑しいことではありません。しかし、合法的でない方法や、道徳的でない方法や、他人から批判を浴びるような方法で一時的に大きな利益を上げたとしてもそれは長続きするものではない。シェルドンは、自らの事業を継続的に発展させるための学問的な企業経営の理念と実践方法を考え出してそれをロータリーの職業奉仕の理念として提唱したのです。

1921 年、スコットランドのエジンバラでの国際大会でシェルドンは、ロータリアンの職業は利益を得るための手段ではなく、その職業を通じて社会に奉

仕するために存在するものであり、儲けを優先しようとして事業を営むことが事業に失敗する最大の原因であると述べています。

他の奉仕活動の受益者はロータリアン以外の人達ですが、職業奉仕の最大の受益者はロータリアン自身なのです。

つまり、ロータリーの言う職業奉仕は見返りを求めないという奉仕ではないということです。言葉を変えると自身への還元を期待している奉仕であります。元RI会長、ガイ・ガンディカー(1915 年より後)は「奉仕を実践する者は、まず、自分が受益者でなければならない」と述べています。

ロータリアンは、まず自分の事業の繁栄を考え、次に自分が属する業界全体の繁栄を考え、究極的には地域社会全体の繁栄を図らなければなりません。職業を持つ我々ロータリアンは、このようにして職業を通じて社会に奉仕できるということがつまり職業奉仕の理念なのです。

私達がロータリアンでいられるのも、このようにロータリーの会合に出席できるのも、自分自身の事業がうまく行っているからです。人の痛みを耳を傾けられる、困っている人達に手を差し伸べられるのも事業あるいは専門職の方も自分の職業がうまく社会の中で動いているからこそなのではないでしょうか。

そのためには、会員個々が、自分自身を支えてくれる従業員や取引業者、品物を買ってくれる顧客に感謝しつつ、自分の職業の質を高めること、道徳心を高揚すること、これを自分の職業に反映させること、職業奉仕の実践とは、この考えを自分の職場、同業者、異業者まで拡大発展させることです。

第2の奉仕部門としての「職業奉仕」というより、ロータリーの目的そのものとして「職業奉仕」ととらえるということです。

ロータリーの目的は主文が、「意義ある事業の基盤として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにあ

されておりますとおり、ロータリアンとして職業人として、職業をどう認識し、何をめざすかをきちんと記しております。そして、行動規範でも、「1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。 2. 取引のすべてにおいて公正に務め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。等々」記されております。

「職業奉仕は難しい」、よく耳にします。先ほども申し上げましたが、私もいわゆる「職業奉仕」の理解・解釈がロータリアン一人一人、クラブ、地区、国、世界で同じであるとは思えません。がしかし、「ロータリーの目的」でも述べている「奉仕の理念を奨励すること、職業上の高い倫理性」については、少なくとも文書上では共通の認識があると理解してよいのではないのでしょうか？つまり、各奉仕部門の職業奉仕ではなく、上位概念としてロータリーの理念そのものという理解で良いのではないのでしょうか？・・・皆様はいかがお考えでしょうか？

「ロータリーの友 1月号」で、前橋RCの本田様（第2840地区PG）が、「「職業奉仕」はロータリーの根幹か？」と題する論文を寄稿されました。題名にはちょっとびっくりいたしました。結論としては、「クラブの一奉仕部門として「職業奉仕」をとらえるのではなく、ロータリアンとして、職業の高潔性を高めるといふ理念に向かって活動しよう」ということと私は理解しました。つまり、「世のため、人のために仕事をしよう」ということかと思ひ、納得いたしました。皆様はいかがでしょうか？

さてしかし、職業に対し、自分自身が理念通りに行動できるかという、これが実際にはなかなか難しい。「言うは易し、行ふは難し」です。

毎日の仕事でいろいろな判断をする必要があります。その時にどう判断し、どう行動するかという身近な話です。その積み重ねです。

その難しさを克服するためにとっても有効な道具があります。何でしょうか？

そうです。皆様ご存知の「四つのテスト」です。

1. 真実かどうか？
2. 皆に公平か？
3. 好意と友情を深めるか？

#### 4. 皆のためになるかどうか？

どうでしょうか？

これを判断基準・指針として物事を決めていくことで、「世のため、人のために仕事ができる」ような気がします。

ですが、すべて100%この指針で物事を決めることはできないでしょう。プラスの判断基準も必要でしょう。そういうことも含め、あきらめず、昨日より今日、今日より明日少しでもできるようにしていきたいと思っております。

また、自らの情報・知識・経験が足りないがために、「世のため、人のため」のつもりが、結果的にそうならないこともあるかもしれません。しかし、あきらめてはだめだと思います。もし、そういう結果的に間違った判断をしたのであれば、その原因を探り、立ち戻って今一度「四つのテスト」を試してみましょう。そうしたら、間違った判断をしなかったとしたら、今度は同じ失敗はしないでしょう。つまり「四つのテスト」を使うための条件が整わないままに使うのではなく、「四つテスト」を使える状態かどうか見極め、使うということが肝要かと思っております。

私自身、失敗したことがあります。「世のため、人のため」と思い、相手(企業)のことを考え、判断・実行しましたが、結果、間違っていました。なぜか？まず、きちんと「四つのテスト」で判断していませんでした。また、「皆に公平か？」については情報が不足しておりました。今、あらためて、知りえる情報を元に「四つのテスト」で判断をすれば、正しい判断をし、違った結論を出してしまいました。苦い経験です。しかし、「次に生かそう、同じ過ちは繰り返すまい」と強く心に誓っております。

さて、「世のため、人のために仕事をする」ことは、その仕事を続けることが大切です。なぜならば、その仕事をやめたら、困る人がいるからです。それで、その仕事を続けるためには、その仕事で継続的に利益を上げていく必要があります。ただし、正当な利益です。

ここで、ロータリーの標語に結び付きます。

すなわち、私たちは、「超我の奉仕＝世のため、人のためにとする心」で仕事に取り組むことで、その

結果、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。」となり、利益を得、仕事に還元させて、更に事業を発展させ、より多く人のために仕事ができるようになるということではないでしょうか。

そして、得た利益の一部をロータリー財団や米山記念奨学会に寄付したり、更にはロータリー財団の基金を活用し、社会奉仕活動や国際奉仕活動のプロジェクトを立案・実行するなど、クラブを通じての幅広い奉仕活動へと繋げていけるのではないのでしょうか。

「そうは言っても・・・」と思っておられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

では、昨今の企業のあり方に眼を向けてみましょう。例えば大企業で、関係されている方がおられるかもしれませんので、申し上げにくいのですが、某自動車会社の燃費不正事件、某電気メーカーの不正経理事件等、自社さえよければよいとの考えあるいは自身の保身のためとの思いで、判断・行動をしていたと言えるのではないのでしょうか？その結果、どうなったのでしょうか？

「たまたまばれたただけだ、運が悪かったのだ」とおっしゃる方はこの中にはおられないと思います。

また、「相手がある商取引でまず相手のことを考えて交渉したら負けてしまうよ。」とおっしゃる方もおられると思います。

でも、相手もやはり儲けが必要です。こちらの利益のみ考えていたのでは、結果交渉は決裂です。つまり、お互い交渉で、歩み寄るわけですね。その中で、相手の利益のことを慮る気持ちがあるかどうかだと思います。そのことは相手にも伝わります。仕方なく妥協したのではなく、相手のことを考慮して妥協したのです。こうしたことは皆様も日常あるのではないのでしょうか？西洋風に言えば「WIN-WIN」、更に日本風に言えば、「売り手よし、買い手よし、世間よし」でしょうか。これが職業奉仕の姿かと思います。

職業奉仕をあまりにも崇高なものと考え、たじろいでしまいますが、私はこのように、できるところから一步一步でも歩を進めて行けばよいのではないかと思います。

高潔性は目指す姿です。ですが、日々努力です・・・と思っています。

繰り返しになりますが、先ほど紹介させていただきました「ロータリーの友1月号」で本田PGの論文ですが、これまで第二の奉仕部門である職業奉仕だけ、他の部門とは違いクラブの活動の枠組みとしての説明が欠落していた、と。そしてここで、2016年の規定審議会で、「～そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために。クラブが開発してプロジェクトに応えることが含まれる。」としています。

なるほどです。第二の奉仕部門である職業奉仕が、奉仕部門として別格のようであったわけですが、むしろ、今回の改定で奉仕の第二部門としての職業奉仕はクラブで取り組む課題として明示され、これまで議論されてきた職業奉仕の倫理性については、むしろロータリーの目的そのものであるという視点で見ればよいのではないのでしょうか？あくまでも私見ですが・・・

ロータリアンとして自らの職業において心得るべき倫理性については何ら変わらないと思います。

ご清聴ありがとうございました。

## ニコニコBOX

神子 勝美 親睦担当委員

山下 清俊様 卓話をして、今日はありがとうございます

榎本 会長 山下さんを講師にお迎えして

渡辺 幹事 //

平川 恵敏 結婚祝をいただいて

神子 恒 セブへ行ってきました

千葉 一利 職業奉仕の話聞いて

合計 7,000

## 出席報告

渡辺 務 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	31/28	22	6		78.57%
前回	31/29	19	10	1	68.97%
前々回	31/27	18	9		66.67%